

ミャンマー・チン州ライレンピー事前調査レポート（概要）

2018.10 NPOadpea

ミャンマー・チン州ライレンピー（Lailenpi）の村落コミュニティの中心となる Mara Evangelical Church（マラ福音教会）の関係者より将来の持続的かつ循環的な村落農業と農民の生活安定の相談を受け、2018年10月に現地視察を実施。



ライレンピーの村全体を丘より望む、三列目の山並みはインド国境、インド側にもマラ族が暮らす。



農家の果樹の診断（剪定状況）を行う

教会関係者はライレンピーの村に計画されている道路整備、設備整備、携帯電話中継アンテナ建設、そしてそれにとまなう人口増加による急激な村民意識変化と環境変化に対して危惧をしている。

周辺の村で唯一の公共施設・学校が存在するため、他村より移住する村民もあり、人口増加傾向にある。雨期（6～10月）は路面状況や山崩れなどにより車でのアプローチが困難。

教会の推奨により約10年前よりコーヒー栽培をおこなう農家があるが、栽培技術、知識がないため十分な収穫にいたっていない。しかしながら、コーヒー栽培に適した地域であり、当NPO法人のこれまでのノウハウ（技術支援、フェアトレードの実績）を生かすことでコーヒー栽培の強化／指導に可能性を見出した。

また、持続的かつ循環的な農業への移行。唯一の換金作物である焼き畑による陸稲栽培か今回の調査では、短時間ではあるが果樹およびコーヒーの栽培講習を行った。その際、新規の換金作物栽培への要望があること、栽培方法への知識意欲が高いことがわかった。



農家の果樹の診断（剪定状況）を行う



剪定方法と初歩的な剪定講習（教会施設にて）を行う



コーヒー豆の焙煎、中央の帽子の男性がマラ福音教会の牧師